

マーケットの動き (2021年10月11日～10月15日)

先週の国内株式市場は、前週末比で上昇しました。

岸田首相が金融所得課税見直しについて、当面行わないと発言したことが好感され上昇してスタートしたものの、その後は原油高を背景とした米国でのインフレ懸念や、サプライチェーン問題への警戒感の高まりから軟調な展開となりました。週の後半にかけては、日米の金利低下や米国の景況感の改善により反発し、日経平均株価は2万9,000円台を回復して週を終えました。

投資環境見通し (2021年10月)

国内株式相場は、さらなる企業業績の上方修正期待から堅調に推移

依然として部材供給制約の生産活動に対する影響が長引いていますが、国内やアジア地域での新型コロナウイルス感染拡大が一服し、ワクチン接種が進展していることから、今後は改善に向かうとみえています。また、国内経済活動の正常化に向けた動きから、潜在的な消費需要が今後は顕在化するとみられ、企業業績のさらなる上方修正が期待されます。外部環境については、米国における金融政策や連邦政府の債務上限問題、中国景気に対する懸念などの先行き不透明感が残り、これらの動向次第で国内株式相場は変動率が高まる場面も予想されます。しかし、企業業績の上方修正余地は大きいとみられることから、国内株式相場は次第に堅調に推移するとみえています。

	10月15日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX (東証株価指数)	2,023.93	3.16%	▲3.46%	3.31%	24.03%
日経平均株価	29,068.63	3.64%	▲4.73%	▲1.94%	23.66%

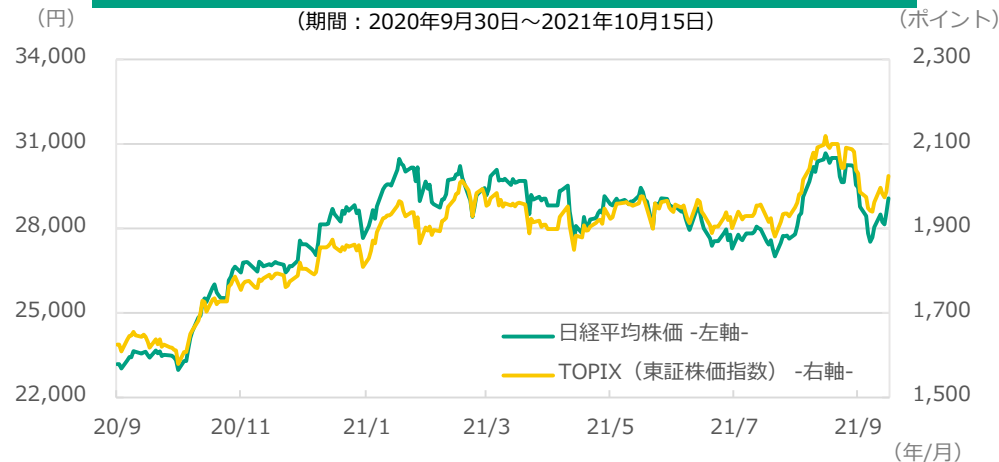
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

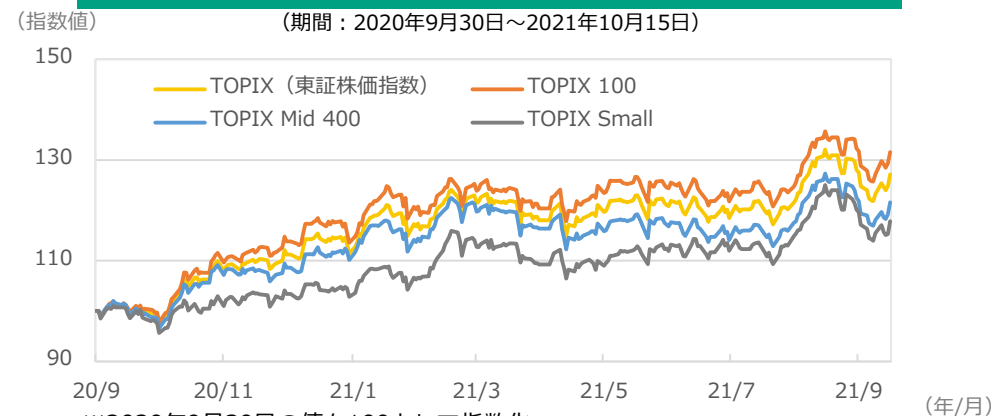
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202110_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日経平均株価、TOPIXの推移



TOPIX規模別指数の推移



※2020年9月30日の値を100として指数化

※出所: FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き (2021年10月12日～10月15日)

先週の米国株式市場は前週末比で上昇しました。

公開されたインフレ指標の上昇ペース鈍化によって過度なインフレ懸念が後退したことや、米国大手銀行の四半期業績が好調であったこと、9月の米国小売売上高が市場予想を上回ったことなどが市場心理を好転させ、週後半にかけて買い戻しの勢いが強まりました。

欧州市場もおおむね米国に連動した推移となりました。

投資環境見通し (2021年10月)

外国株式相場は緩やかに上昇

米国：追加財政支出や連邦政府の債務上限問題、中国景気への懸念などが残る中、短期的には上値の重い展開が予想されます。しかし雇用環境の改善、部材供給制約の解消に向けた動きが確認されるにつれ、企業業績はさらに上方修正されるとみられることから、金融政策正常化に向けた動きを織り込みつつ、緩やかに上昇すると予想しています。

欧州：中国景気に対する懸念やドイツ連立政権協議の長期化などにより変動率が高まる場面も予想されますが、好調な欧州経済や世界貿易の拡大を背景に企業業績がさらに上向くと考えており、米国市場と同様に緩やかに上昇すると予想しています。

	10月15日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	4,471.37	1.82%	▲0.21%	7.22%	28.36%
NYダウ	35,294.76	1.58%	1.38%	3.70%	23.87%

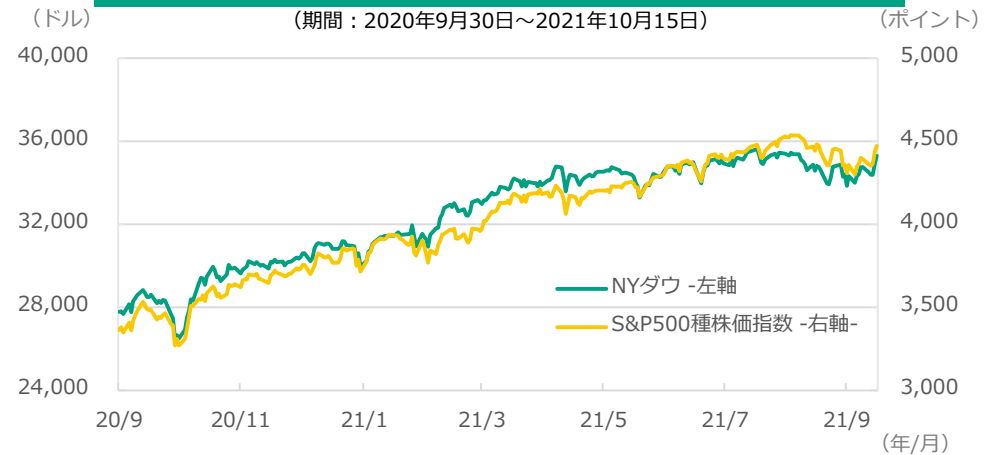
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

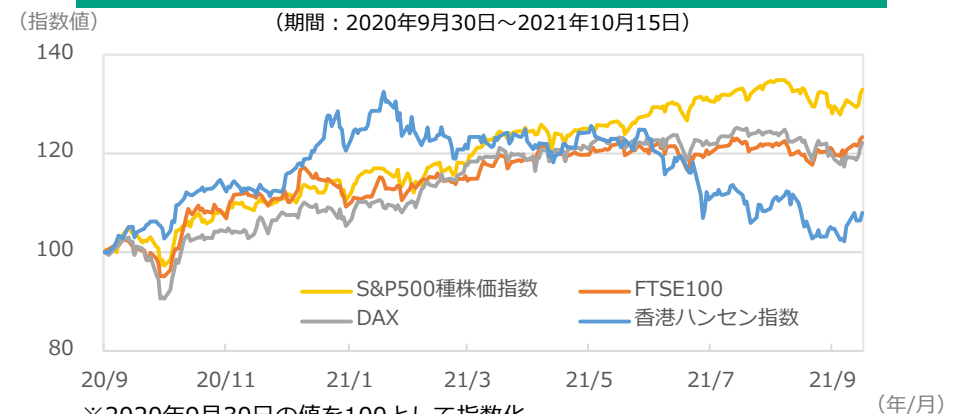
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202110_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

米国株価指数の推移



主要国株価指数の推移



※2020年9月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2021年10月11日～10月15日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいとなりました。週の前半は、米国金利が高水準で推移する中、国内金利も上昇余地を試す展開となりました。週の後半は、米国金利が低下に転じたことから国内金利も低下基調となり、前週末とほぼ同水準で週を終えました。クレジット市場は、投資家の利回り確保ニーズが需要を下支えしました。

投資環境見通し（2021年10月）

国内長期金利は低位で安定

国内長期金利は、日銀が現行の緩やかな金融政策を継続し、内需回復ペースは緩慢で低インフレ環境が続く中、当面は低位で安定した推移を予想しています。ただし、金融政策正常化に向けた動きで先行する海外長期金利の動向次第で変動率が高まる可能性があるかとみています。

	10月15日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.08	▲0.00	0.04	▲0.01	0.05
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	386.99	0.04%	▲0.32%	0.14%	0.01%

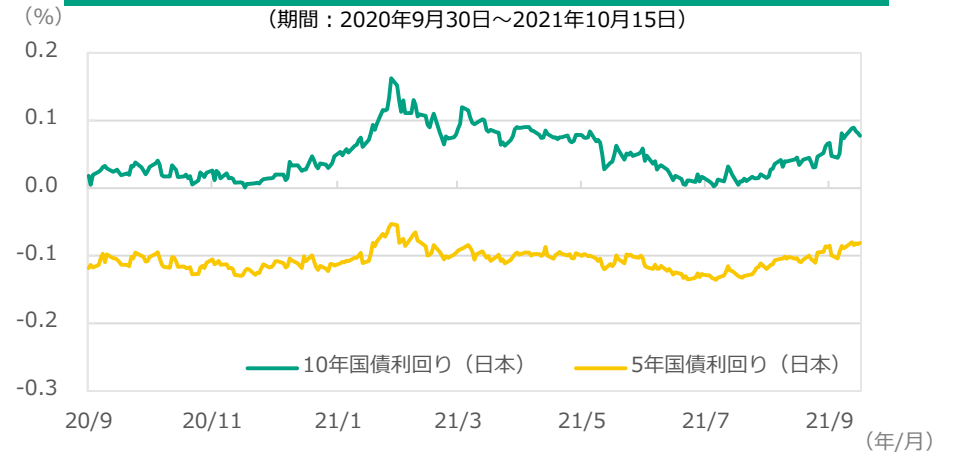
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

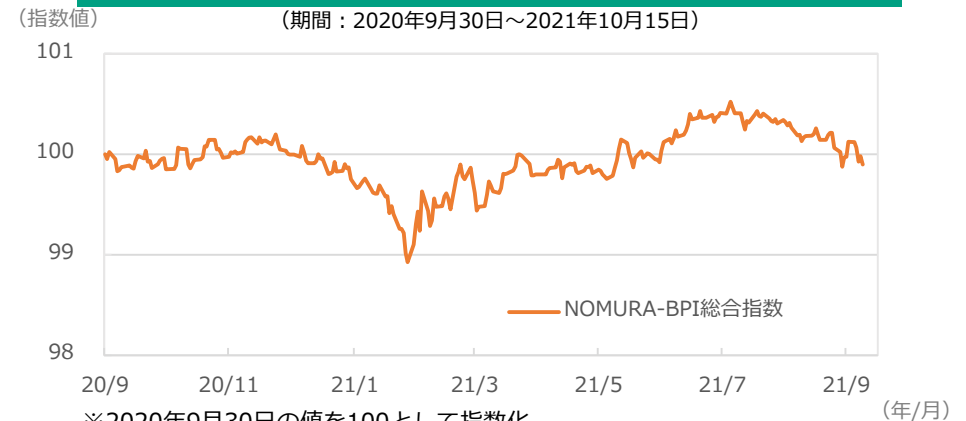
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202110_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移



NOMURA-BPI総合指数の推移



マーケットの動き（2021年10月12日～10月15日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。IMF（国際通貨基金）が12日に公表した世界経済見通しで、2021年の米国成長率予想を引き下げたことなどから米国金利は低下基調で推移しました。週末にかけては、好調な企業業績による景況感の改善を受けて金利上昇に転じましたが、週を通しては金利低下となりました。

ドイツ国債市場は、おおむね米国に連動した推移となりました。

投資環境見通し（2021年10月）

長期金利は、米国、欧州（ドイツ）とも緩やかに上昇

米国：景気については消費者心理の悪化がみられる一方、新型コロナウイルス感染拡大がピークアウトしていることに加えて、旺盛な求人環境から雇用情勢は引き続き改善するとみられます。長期金利については、経済活動正常化の進展がより一層明らかになるとともに緩やかに上昇基調を辿ると予想しています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）の緩和的な金融政策が続く一方で、域内の堅調な経済活動やインフレ期待の高まりなどを背景に長期金利は緩やかに上昇すると予想しています。

	10月15日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.57	▲0.03	0.27	0.04	0.85
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	519.03	2.42%	2.10%	3.36%	5.24%

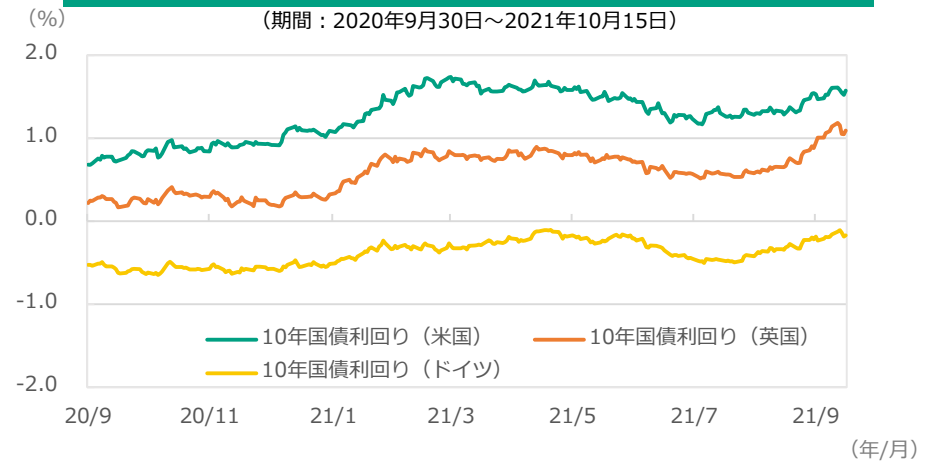
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202110_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



※2020年9月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2021年10月11日～10月15日）

先週の国内リート市場は、前週末比で上昇しました。
岸田首相が金融所得課税見直しについて、当面行わないと発言したことが好感され上昇してスタートしたのち、日米長期金利の低下や米国での過度なインフレ懸念の後退が支援材料となり、東証REIT指数は前週比3.0%の上昇となりました。
セクター別では、オフィスセクターや、住宅セクター、商業・物流等セクターが総じて上昇しました。

投資環境見通し（2021年10月）

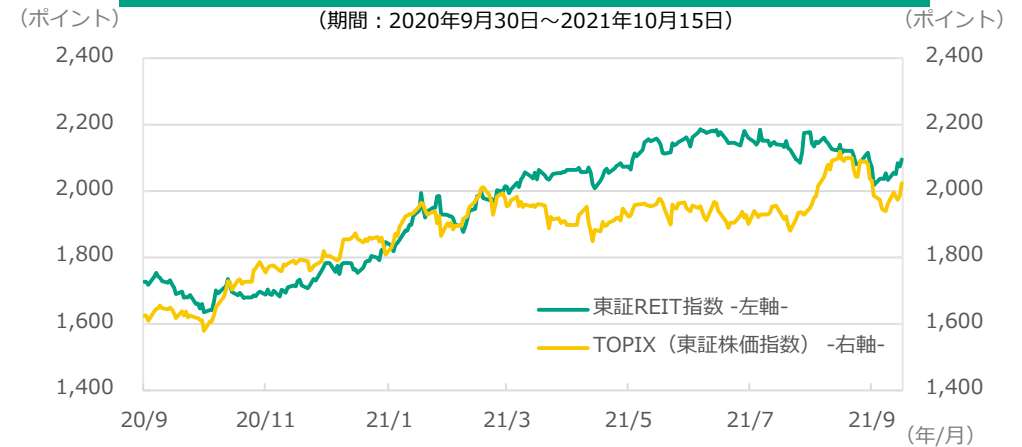
東証REIT指数は底堅く推移

コロナ禍で1年以上が経過し、業容拡大に向けてオフィスを増やそうとする動きも始めている一方で、定期借家契約が多い大企業からの解約の動きが国内リート市場の重しとなりそうです。しかし、緊急事態宣言の解除によりホテルや都市型商業施設を中心に業績の回復が期待されるほか、物流施設は良好な事業環境が続いており、住宅は底堅い値動きを予想しています。日銀の低金利政策が続く中、利回りを求める資金は引き続き多いとみており、公募増資の増加が予想される中でも需給の緩みをこなしながら東証REIT指数は底堅く推移すると予想します。

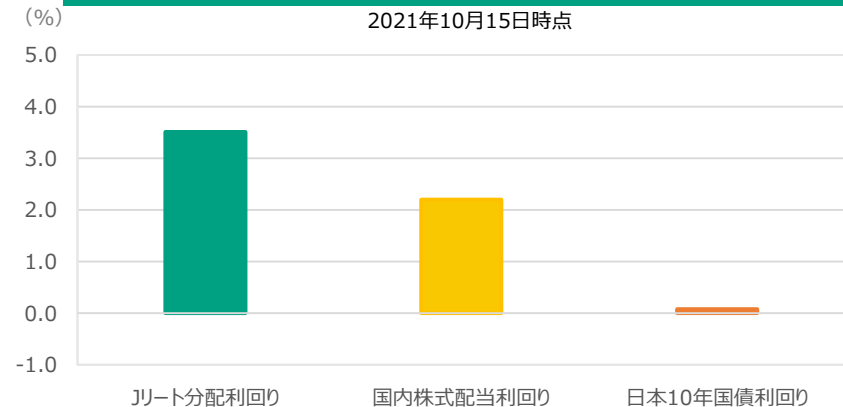
	10月15日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	2,094.92	3.02%	▲0.95%	2.92%	22.57%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	2,023.93	3.16%	▲3.46%	3.31%	24.03%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

東証REIT指数、TOPIXの推移



国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2021年10月12日～10月15日）

先週の為替市場は、米ドルは対円で上昇（円安）しました。
株高によるリスク選好局面を受けて、円は主要通貨に対し全面安の展開となりました。
ユーロは、対円、対米ドルともに上昇しました。

投資環境見通し（2021年10月）

円に対して、米ドルは緩やかに上昇、ユーロは底堅く推移

米ドル：米国において、雇用情勢の改善や、部材供給制約は解消に向かい経済活動正常化が進むとみられることに加え、FRB（連邦準備制度理事会）による金融政策の正常化に向けた動きも意識されやすく、米ドルは円に対して緩やかに上昇するとみています。

ユーロ：ECB（欧州中央銀行）が当面は緩和的な金融政策を続けるとみられるものの、ユーロ圏の比較的堅調な経済活動に支えられ、ユーロは円に対して底堅く推移するとみています。ただし、ドイツにおける連立政権協議の長期化など、政治動向が材料視される場面では、ユーロの値動きは重くなるとみています。

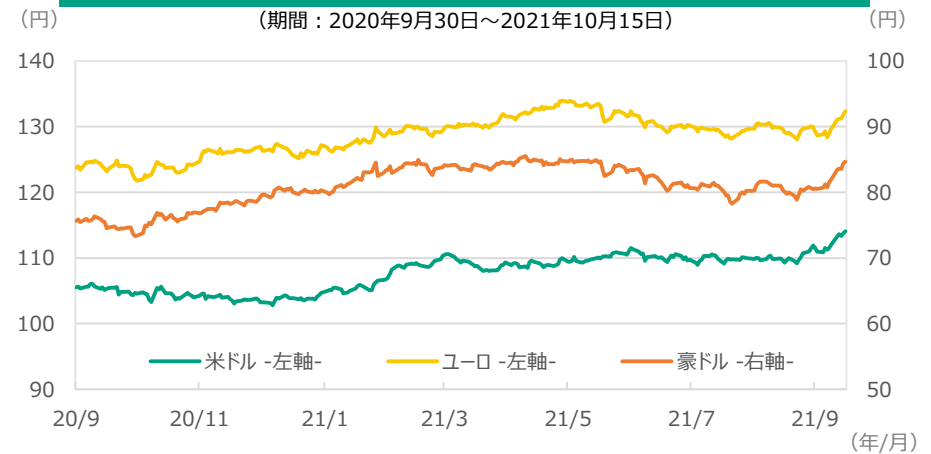
	10月15日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	114.07	2.02	4.77	5.33	8.78
ユーロ/円	132.38	2.70	3.20	2.23	9.20

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

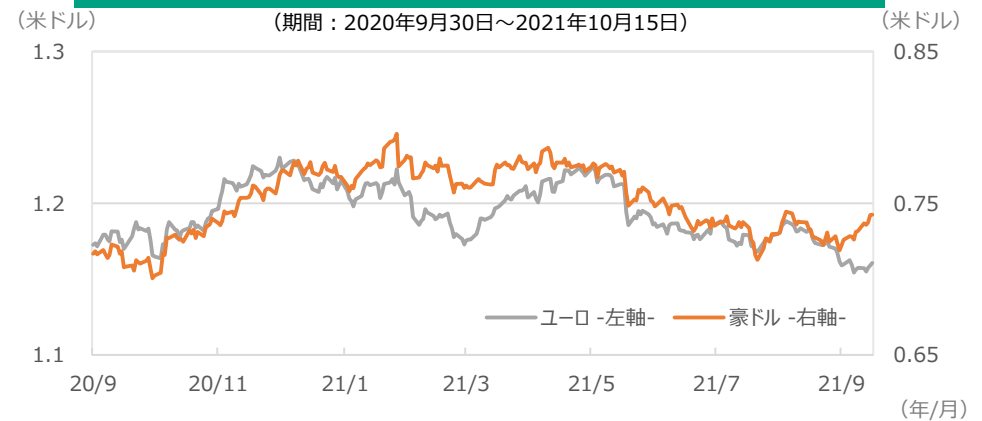
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202110_outlook.pdf

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

使用インデックスについて

●東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所市場第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象とする株価指数です。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、㈱東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

●東証REIT指数(配当込み)は、東京証券取引所に上場する不動産投資信託全銘柄を対象とした「時価総額加重型」の株価指数である東証REIT指数に配当金等の収益を考慮した指数です。東証REIT指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所(㈱東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村證券株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村證券株式会社の知的財産です。野村證券株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●その他当資料にて使用したS&P500種株価指数、DAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、スタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスーズ エル エル シー、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。